

2008.12.25

「世の中」と「身の回り」の経済状況についての意識調査

経済気分2009

～「来年の景気が悪くなる」と答えた人は、59.2%で過去最高に～

博報堂生活総合研究所は「世の中」と「身の回り」の経済状況についての意識調査（2008年11月末）を実施し、「経済気分2009」としてまとめましたのでご紹介いたします。

2008年の経済状況についての評価を見ると、「世の中の景気が良かった」と答えた人は昨年比13.9ポイント減で僅か2.8%、「悪かった」と答えた人は43.0ポイントの大幅増で84.7%、「どちらともいえない」は30.0%減の10.2%となり、ほとんどの人が世の中の景気悪化を強く実感しています。一方、「自分自身の生活（月収、ボーナス、こづかいなど）が良かった」と答えた人は昨年比1.5ポイント減の16.4%、「悪かった」と答えた人は1.7ポイント増で43.1%、「どちらともいえない」が1.1ポイント減の38.2%で、昨年と比べ若干悪化、「悪かった」という人が「良かった」という人の2.6倍になりました。「世の中の景気」「自分自身の生活」とともに、比較可能な2004年以降最悪の評価となりました。

今年の夏以降、アメリカ発の金融危機をきっかけに国内景気も急速に悪化、各種の経済指標や景気指標は軒並み過去最低値を記録、円高の直撃などで企業業績も落ち込んでいます。生活面での影響も大きく、株安や、日用品・食料品の値上がり、給与所得の減少、雇用不安の拡大などで家計にもダメージを与えました。2008年は「世の中の景気」も「自分自身の生活」も非常に厳しい1年だったといえます。

来年への展望（2009年への展望）については、「来年の世の中の景気が良くなる」と答えた人は16.4%で、昨年（2008年への展望）に比べ0.6ポイントの微増となりました。「悪くなる」と答えた人は18.7ポイントの増加で59.2%となり、こちらも2004年以降最悪となっています。「今年と変わらない」は19.9ポイント減の22.4%でした。やはり、はっきりと来年の景気後退を意識している人が増えています。また、「来年の自分自身の生活が良くなる」と答えた人は8.3ポイント減の12.5%、「悪くなる」と答えた人は10.7ポイント増の42.5%、「今年と変わらない」と答えた人は2.7ポイント減の43.1%でした。「世の中の景気」「自分自身の生活」に対する来年への期待度は大きくありません。

先ごろ発表された12月の日銀短観はオイルショック以来過去2番目の下落幅になりました。国内総生産もマイナス成長が来年まで続くのではとの予測もあり、景気回復の時期が見えず生活者の先行き不安感が増大しています。個人消費が一段と冷え込めば景気後退が長期化する懸念もあります。景気の低迷が続く中、2009年も厳しい状況が続きそうです。

〈調査結果〉

* ()内の数値は昨年と同調査の結果です。また、矢印は昨年と比較した今年の概況を示します。

(1) 今年の「世の中の景気」はどうだったと思いますか。

良かった	2.8%	↓	(16.7%)
悪かった	84.7%	↑	(41.7%)
どちらともいえない	10.2%	↓	(40.2%)

(2) 今年の「あなた自身の生活（月々の収入、ボーナス、こづかいなど）」はどうだったと思いますか。

良かった	16.4%	↓	(17.9%)
悪かった	43.1%	↑	(41.4%)
どちらともいえない	38.2%	↓	(39.3%)

(3) 今年と比べて来年の「世の中の景気」はどうなると思いますか。

良くなる	16.4%	↑	(15.8%)
悪くなる	59.2%	↑	(40.5%)
今年と変わらない	22.4%	↓	(42.3%)

(4) 今年と比べて来年の「あなた自身の生活（月々の収入、ボーナス、こづかいなど）」はどうなると思いますか。

良くなる	12.5%	↓	(20.8%)
悪くなる	42.5%	↑	(31.8%)
今年と変わらない	43.1%	↓	(45.8%)

注)：合計が100%になっておりませんが、これは調査データに一部「無回答」が含まれるためです。

調査対象者： 首都圏の18才から74才までの男女353人
調査方法： 郵送法
調査年月： 2008年11月下旬

本件に関する詳細のお問い合わせは
博報堂生活総合研究所 (03-6441-6450) までお願いいたします。